



笹小だより

No. 5



平成29年8月28日
横浜市立笹野台小学校

新しい時代に向けて

校長 倉岡 ナオミ

今年の夏は例年と違って夏らしくありませんでした。梅雨が明けた後、ずっと梅雨のような天候ばかりで、からっとした夏の太陽をまぶしく感じる時は少なかったです。また、何十年に一度というような雨の降り方・・・このところ、私たち人類への天からの警告のような天候が続いています。日本を取り巻く情勢も緊迫しています。子供たちを預かる身としては、毎日の情報から目が離せません。9月1日の防災の日に向けても、職員でもう一度、施設点検や子供たちの安全確保について確認していきたいと思います。

しかし、どのような状況であっても、私たちが日々進めていく教育活動は変わりません。今できることを、今やらなければならないことを、着々と、粛々と進めていくしかありません。少し長い充電期間を経て、またスタートです。学校には元気な子供たちのいつもの声が戻ってきました。職員一同、前期まとめの時期も子供たちのために頑張っていきます。

さて、休みの間、職員の研修の機会もたくさんありました。その中での話を一部、皆様と共有しておきたいと思います。ご存知のように平成32年度の新学習指導要領全面実施に向けて、30年、31年が移行措置期間となります。それを受けて学校の教育課程が編成されます。「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を**学校と社会が共有し、連携・協働しながら**、新しい時代に求められる資質・能力を子供たちに育んでいこうとする、「**社会に開かれた教育課程**」です。その教育課程の中で、変化の激しい社会を生きるために必要な力である「生きる力」をより具体化し、どのような資質・能力を育む必要があるかが次のように三つの柱として明確にされました。

- ① 「何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「**知識・技能**」の習得）」
- ② 「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「**思考力・判断力・表現力等**」の育成）」
- ③ 「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「**学びに向かう力・人間性等**」の涵養）」

このような考えを受けて、それでは、この笹野台小学校の子供たちにはどのような力をどのような場で育てていけばよいのかを、皆様とともに考え、これからの10年の見通しを持った教育課程を作っていきたいと思います。今後、皆様からも広くご意見をいただきながら、学校目標の見直しや育んでいきたい力の具体化などを進めていきたいと考えておりますので、ぜひ、御協力をお願いいたします。